

[野菜部門]

5. ニンニクの大玉生産に望ましい植え付けりん片の大きさ

[要約]

ニンニクの収穫球の大きさと植え付けりん片の大きさは関係が強く、10 g 以上のりん片を植え付けると大玉を収穫できる割合が高くなる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話0867-66-2043

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県北部ではニンニクの栽培が行われているが、必ずしも大玉を多く収穫できていない。また、種球代が高いため、購入種球を1～2年自家増殖してコストの低減を図る農家も多い。そこで、植え付けりん片を大きさごとに分けて栽培し、出荷用にも種球生産用にも有利な大玉生産に適した植え付けりん片の大きさを明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 植え付けりん片が大きいほど、重い収穫球（大玉）の生産割合が多くなる（図1、2）。
2. 植え付けりん片の大きさが同じであれば、それを採取する種球の大きさにかかわらず、同等の大きさの収穫球を生産でき、大玉生産には10 g 以上のりん片を植え付けるのが良い（表1）。
3. 種球の自家増殖において、大きいりん片を植え付けるほど、収穫されるりん片も大きいものが増える傾向がある。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は県北部全域に適用できる。

[具体的データ]

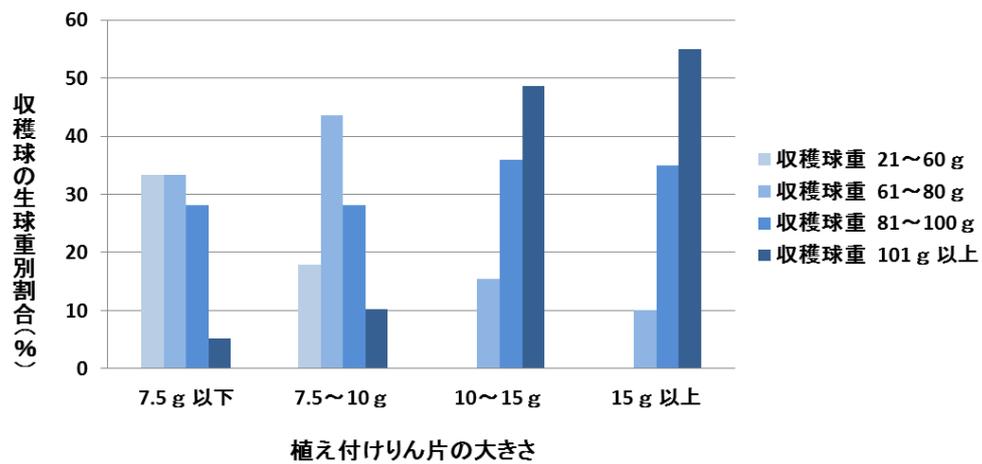


図1 植え付けりん片の大きさが収穫球重に及ぼす効果 (福地ホワイト)

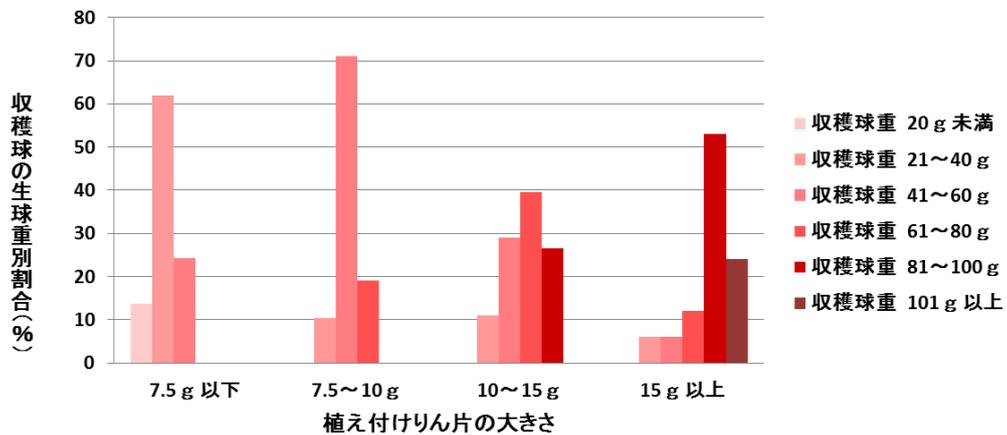


図2 植え付けりん片の大きさが収穫球重に及ぼす効果 (白玉王)

表1 りん片採取球の大きさと植え付けりん片重の組み合わせが収穫球重へ及ぼす影響 (福地ホワイト)

植え付けりん片重	りん片採取球		
	S球 (4~5 cm)	M球 (5~6 cm)	L球 (6~7 cm)
7.5 g 以下	60.0 g	83.1g	68.3g
7.5~10 g		75.7	76.2
10~15 g		102.7	95.7
15 g 以上			106.2

[その他]

研究課題名：高冷地域に適した果樹・野菜・花品種の育成・選定と栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2011~2015年度

研究担当者：岸本直樹、佐野大樹、信岡佑太